

支部4
シン
協同
コン
建が

在るべき姿探る

講演など510人が参加



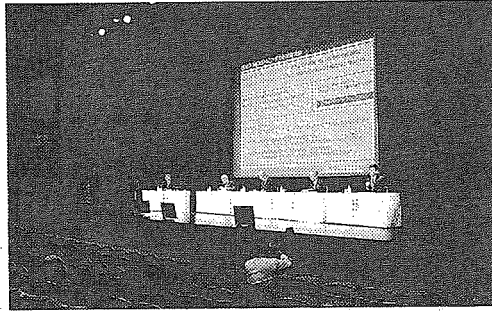
吉津支部長

建設コンサルタント協会近畿支部（吉津洋一支部長）と中国支部（小田秀樹支部長）、四国支部（天羽誠二支部長）、九州支部（田中清支部長）の4支部は9日、大阪市のエル・おおさかでシンポジウム「西からつくる、未来のカたち」や「やっぱり、未来は面白い

ほっがいい。」を開いた。会場とウェブを合わせて510人が参加し、基調講演や4支部長らによるパネルディスカッションに耳を傾けた。

冒頭、近畿支部の吉津支部長は「日本はコロナ禍から回復できずにいるほか、エネルギー危機による物価上昇から企業活動・生活への影響が発生している。年々激甚化する自然災害、社会インフラ老朽化、地方過疎化の課題もある。さまざまな課題を乗り越えながら、次の世代に安全・安心な暮らしを残すことが使命だ」

パネルディスカッション



とあいさつした。

池田豊人香川県知事は「瀬戸内海を活用した西日本連携」と題して基調講演した。2050年に西日本の在るべき姿をイメージした各エリアのプロジェクトや西日本コネ

クテッドリーダーの合同提言に続き、パネルディスカッションに移った。

ディスカッションでは、近畿支部の道路研究委員と国土交通分科会学識委員を務める大津宏康松江工業高等専門学校校長がコーディネーターを、4支部の支部長がパネリストを務め、各支部での地域活性化の取り組みや同構想について活発に意見を交わした。

で、効果が大きくなる」と意欲を示した。

小田支部長は「提言内容の実現による効果を分かりやすく伝える取り組みが重要だ。経済状況や技術、価値観などは常に変化する。提言をさらに良くする必要がある」と語った。

天羽支部長は「産官学への継続的な働き掛けが大事だ。今回の提言は四国にとって大きな機会となった。南海経済軸は四国の活性化につながる」と期待した。

吉津支部長は「広域インフラは理想の社会を支えるものだ。三方（地域・地方・国）よし、未来よしの精神で次世代により良い国土と地域社会を残したい」と述べた。